

頑張るあなたを独りにしない

名古屋市議員

久田くにひろ

プロフィール

昭和58年12月31日生まれ。瑞穂区生まれ。
陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。今年度は総務環境委員会（副委員長）、安心安全なまちづくり対策特別委員会などに所属。

街頭活動

2,212回

9月5日時点

子育てと仕事を両立できる名古屋に

共働き世帯は全国で1,300万世帯に達し、名古屋市で子どものいる夫婦の共働き率は6割の実態を踏まえて

朝の子どもの居場所づくりを政策課題に

保育園の預かり時間と小学校の登校時間の差によって生じる「朝の小1の壁」。共働き世帯の増加を踏まえ、名古屋民主市議団は、来年度予算要望で登校前の児童が安心・安全に過ごせる外部人材の活用を踏まえた運営体制による「朝の子どもの居場所」の整備を求めています。

登校前に子どもが
安全・安心に
過ごせる居場所を



暴風警報時の学校ルール見直しへ

午前6時の暴風警報が11時までに解除されると午後から授業となるルールは、共働き世帯の仕事の調整や子どもの安全確保に大きな負担です。立憲民主党の岡本市議は、終日休校など予定を立てやすい運用を提案。教育委員会は、他都市の事例を参考に課題を整理し、ルールの見直しを検討する方針を示しました。

午後から授業の
急な対応
見直しに動く！



トワイライトの夏休み昼食提供を進める

長期休業中、トワイライトを利用する子どもの弁当準備は、働く保護者の大きな負担。久田くにひろの本会議での提案により、令和6年度から、注文した弁当を利用先へ届ける昼食配送モデル事業を実施しました。一部では温かい白米を提供するなど質の向上も図り、実施施設は22か所まで拡大しています。

久田
くにひろが
本会議で
提案

夏休みの平日は
午前8時から
トワイライトが
利用できるように

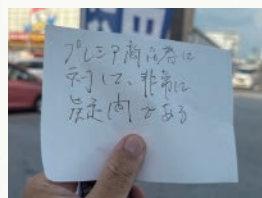
夏休みの預かりを充実！トワイライトサマールーム

共働き世帯の声を受け、一部のトワイライトスクールで夏休みの預かり時間を拡充。平日は午前8時から午後7時まで利用でき、指導員による見守りやおやつも提供しています。名古屋民主市議団の提案で実現し、今後はトワイライトルームへの移行を更に進めます。



誰も取り残さないプレミアム商品券へ

今年のプレミアム商品券は電子版のみ。申込みにはスマホに加え、マイナンバーカードが運転免許証による本人確認が必要です。立憲民主党の赤松市議は、制度から取り残される人が生じる問題を本会議で指摘。今後、名古屋民主市議団は、紙の商品券の復活や誰もが申し込める制度への改善、来年度以降の継続を強く求めています。



市民から実際に頂いた声

市民の皆様から
多くの声を
頂いています





療育センターにおける受診予約のオンライン化

久田くにひろの質問

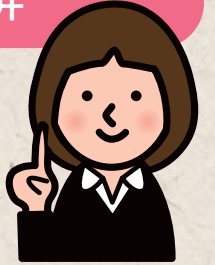


久田くにひろ

中央療育センターでの予約受付は電話であり、また、受診したい月の前月の1日以降に電話することとなっているため、予約受付開始直後には電話が集中し、つながりにくい状況が生じている。共働き世帯が増加する中、平日の限られた時間帯に電話をかけるのは、大きな負担である。療育センターにおける受診予約等について、利用者の利便性向上及び職員の業務効率化の観点から、オンライン予約やオンライン申込みの導入を含めた予約方法の見直しを進めるべきでは??

できるところから着手することも方法のひとつ。公民が混在している5か所の地域療育センター全体の調整が必要ない、例えば、中央療育センターで実施している18歳未満の愛護手帳更新に必要な判定予約については、オンライン予約を導入できるのでは??

子ども青少年局長の答弁



子ども青少年局長

必要な支援へ確実につなげるという初診受付の重要な役割や、公民が混在している市内5か所の地域療育センターの運営手法の調整など、センター全体の課題整理を踏まえて検討していく。

現在電話での受付をしているが、予約のオンライン化は、保護者の利便性向上及び職員の負担軽減の双方の観点から、非常に有効な手法であると認識している。先行する他都市を参考にしながら、できる限り早期にオンライン予約を導入できるよう、鋭意検討を進める。

継続利用者の再診予約も同様に、また、心理士増員による発達検査体制の充実を強く要望する。

認知症の人への
買い物支援における
スローショッピングの取組み

ゆっくりと
買い物をしても
大丈夫ですよ

久田くにひろの質問

前回の答弁から1年半が経過したが、周知にとどまっている現状では不十分。例えば、包括連携協定を締結している企業などにも協力を得て、認知症の人に配慮したスローショッピングを市内で展開していくべきでは?



久田くにひろ

健康福祉局長の答弁

スローショッピングの理念である自分のペースで買い物や支払いをしていただくための配慮は、どの場面であっても大切なものであると認識しております。今後、包括連携協定を締結している企業に加え、締結を予定している企業にもご協力いただきながら、認知症の人への買い物支援として、認知症の人に配慮したスローショッピングの取組みを展開していく。



健康福祉局長

スローショッピングとは

認知症の人や高齢者など、買い物に不安を感じる方が、周囲からせかされることなく、自分のペースで商品を選び、安心して支払いができる買い物環境を整える取組み。

病児・病後児デイケア事業における
送迎支援制度の導入

送迎支援で
育児と仕事の
両立を

久田くにひろの質問



久田くにひろ

子どもの早期受診と安全を確保し、保護者の就労継続、保育所等の負担軽減、病児保育施設の円滑な受入れにつなげ、育児と仕事の両立を実質的に支えるため、岐阜市などで実施されている、病児・病後児デイケア事業における送迎支援制度を導入すべきでは?

子ども青少年局長の答弁



子ども青少年局長

保護者の不安や負担を軽減し、子育てと仕事の両立を支援する制度であると考えている。保育所等関係団体や事業実施施設からのご意見を踏まえながら、調査研究を進めていく。

送迎支援
とは

保育中に子どもが体調不良となり、保護者が仕事等の事情ですぐに迎えに行けない場合、保護者の依頼を受け、病児保育施設の看護師や保育士などがタクシー等で保育所へ迎えに行き、医療機関を受診した後、病児保育施設で保護者が迎えに来るまで預かる仕組み。国が必要な子育て支援策の一つに位置付けている。



久田くにひろ

私が直接お話を伺った限りではあるが、保護者だけでなく、保育所、病児保育施設、医療関係者の皆さんも、総論として、送迎支援は必要な施策であると感じておられた。現場にこれだけ必要性を感じる声があるのであれば、市としても、その声を丁寧に聞き、前向きに検討していくべき!!